

倫理

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和5年度（第3回）共通テストの「倫理」の問題作成の方針は次のとおりである。「人間としての在り方生き方に関わる倫理的課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。」

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 「心と行為」について（源流思想）

高校生の会話という場面から、人助けの実践ができなかった悩みに関連して、先哲の様々な思想を問う問題設定である。宗教的な実践や心の在り方について、先哲の原典資料の読み取り、日常生活につなげて考察する学習過程が重視されている。問4までの設問は、受験者の基礎的な知識を確認する問題として必須であり複雑な問い方は避けるべきであるが、絵画資料などを用いた工夫を期待する。問5～7は大問のテーマ設定に対する各先哲の見解であり、メッセージ性に優れる。知識と読解の純粋な組合せである点は、例えば、考え方の比較や差異を手掛かりに、日常生活や社会の課題を考察したり、源流思想の巨視的な価値観を問うたりすると、批判的な吟味を含めて考察する力を求められる。一部に知識の精度が必要な問題があったため、全体としては標準的な大問であるものの、問題の難易度についてよりバランスのとれた出題をする余地がある。

問1 宗教的实践について問われている。正確な知識を基に考えれば解答できるが、朱子学の性即理に関するやや細かな判別が求められたため難問であった。

問2 行為と結果について、パウロ、ウパニシャッド哲学、イスラーム、ソクラテスが幅広く問われている。それぞれについての正確な理解が求められた設問である。

問3 ムスリムの「信仰告白」に関する設問。イスラームの基礎的な知識で解答できるため、六信五行に絞る場合はムスリムの生活と関連させるか、イスラームに限定せずに広く問うたりするような工夫があってもよい。

問4 仏教、孔子、イエス、ヘレニズム期の懐疑派など様々な思想や先哲における心の在り方についての考え方が問われている。懐疑論まで学習できている受験者は少ないと思われ、正誤の判別が細かいため、やや難問であった。

問5 先哲の文章（原典の一部）から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問であり、ルターの基礎的な知識も求められている。

問6 先哲の文章（原典の一部）から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問であり、仏教の考え方についての基礎的な理解が求められている。

問7 先哲の文章（原典の一部）から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問で

ある。ソクラテスの思想を前提として文章全体からその主張を理解する必要がある。選択肢にはやや曖昧な表現も含まれるため判別が難しい。

問 8 先哲の文章（原典の一部）を資料として読み取り、生徒が先哲の思想を踏まえて自らの行為や判断を振り返っている。日常生活と先哲の「心」の理解を結びつけて理解を深める工夫がされた良問である。こうした出題が増えることが望まれる。

第2問 「縁」について（日本思想）

生徒が会話や資料を通じて、「縁」について考えを深めていく大問である。授業で学んだ先哲の思想についての知識を用いながら資料を読解させるなどの良問が多く含まれていた。出題範囲も古代から近現代まで、バランスがよく、標準的な難易度の大問である。会話文の文脈や絵画資料を十分に踏まえなくても解ける問題が多かった点については、工夫を期待したい。

問 1 無常を見つめた中世の人物についての知識を問う、標準的な難易度の設問である。西行や兼好（吉田兼好）の和歌や随筆の文章が具体的に示されていなかったため、判断に迷う受験者がいたかもしれない。

問 2 中江藤樹の朱子学批判や、時・処・位に応じた道德の実践という知識を問う、平易な設問である。

問 3 近松門左衛門が義理・人情の観念を作品中に描いたという知識と、資料読解を組み合わせ、やや平易な設問である。息子を思う親の心情に寄り添って資料を読み取るが必要になる。

問 4 レポートの中で述べられた夏目漱石と和辻哲郎の基本的な知識を問う、やや平易な設問である。下線部だけでなく、レポート全体を読んで答えさせるなどの工夫があることが望ましい。

問 5 古代・中世日本の神々をめぐる思想の正誤を問う設問だが、伊勢神道についての細かい知識が問われており、難易度が高かった。

問 6 社会の問題を考えた四人の人物の事績の正誤を判断する設問である。西光万吉や石川啄木、そして自然主義については掲載していない教科書もある。また、河上肇が、『貧乏物語』で人道主義・社会改良主義を訴えていたが、後にマルクス主義に改めたという細かい知識を必要とする選択肢もあり、判断に迷う受験者が多かった。

問 7 選択肢の前半を親鸞の思想についての知識、後半を資料の読み取りによって解答させる、標準的な難易度の良問である。

問 8 学習のまとめとして書いたレポートの内容に合致する選択肢を選ばせる、平易な設問である。文章量が多いため、正確に内容を読み取る力が求められた。会話文とレポートの内容を組み合わせさせて読み取らせるなどの工夫があると、なおよい。

第3問 社会の在り方について（西洋近現代思想）

人々が共存するために社会が必要だが、それを多様な人々に開かれた公共的な場として構築していくためにはどうすればよいかについて西洋近現代思想を参照しながら考える大問となっている。スピノザやヒューム等の哲学者を積極的に取り上げ、社会の在り方を考える材料を提供している。冒頭のリード文を高校生と先生の会話文を踏まえて読み解くという形の設問を最後に置き、大問の趣旨が受験者に伝わりやすくなる工夫をしている。しかし、設問ごとの難易度に少しばらつきがあり、全体としてはやや難易度が高い。

問 1 ルネサンス期の人文主義者についての基本的知識が問われている。ただし、エラスムスとルターの自由意志に関する論争の内容を知っていることが求められ、難易度が高い。

- 問2 スピノザの国家論を資料として提示し、その内容の正確な読解を求めている。資料の読み取りによって解答でき、平易である。
- 問3 ヒュームについての基本的知識が問われている。空欄補充形式にすることで正答のヒントが得られるようになっているが、経験論と合理論の概念の理解が求められるため、難易度が高い。
- 問4 ヘーゲルの説く市民社会について問われているが、市民社会が「欲望の体系」とされていることや、人倫は三段階を経て実現すると考えられていることを理解しておく必要があり、やや難易度が高い。
- 問5 『百科全書』の「人間性」の項目を実際に示し、フランス啓蒙主義に関する基本的知識と、資料の読み取りを組み合わせて解答する設問となっている。ただし、百科全書派に関する理解や、資料の複雑な記述の読解が求められ、正しい選択肢を複数選択する形式とあいまって、難易度が高い。
- 問6 社会を対象にした思想や学問である社会主義や社会学の草創期を取り上げた設問である。ただし、サン＝シモンもコントも高等学校の授業で十分に取り上げるのは難しいので、難易度が高く、受験者はとまどったと思われる。
- 問7 ハーバーマスの思想のキーワードが分かっていたら選択肢が絞られ、資料の読解によって正答できる。やや難易度は高いが、興味深い資料の提示によって、かつては有閑階級が公共性の担い手になっていたことを受験者に教えている。
- 問8 第3問冒頭の文章の趣旨を問う設問であるが、高校生と先生の会話文を入れる工夫が施されている。社会による画一化のリスクを乗り越え、多様な他者と共生することを説く会話文の内容を理解することで正答が導き出せるようになっており、標準的な難易度の良問である。

第4問 高齢者の孤独と孤立（青年期・現代の諸課題）

「高齢者の孤立」や現代の倫理的諸課題について、高校生の発表や資料を基に知識や読解力を問う大問である。基礎的基本的な知識に加え、資料を正確に読み解く力が求められた。平易な設問だけでなく高い考察力を必要とする設問もあり、大問としての難易度は適切である。

- 問1 個人と社会の関係を論じた思想家の名称を選択する設問である。イの選択肢であるリースマン、リップマンについては記載のない教科書もあるため、とまどった受験者が多くいたと考えられる。難易度の高い設問である。教科書に記載のない思想家については、資料等を用いた読解問題であるとよい。
- 問2 モラトリアムについての設問である。正答以外の選択肢も基本的用語の説明であるため、難易度としては易しい設問である。
- 問3 生命倫理の用語について基本的な知識を問う標準的な設問である。
- 問4 情報社会に関する用語についての標準的な難易度の正誤問題である。この設問では下線部が引かれている部分だけを読めば正答を導くことができるため、資料読解やレポートの内容を用いる等の一工夫をされたい。
- 問5 ハンナ・アーレントの標準的な難易度の資料問題である。倫理的な見方・考え方を踏まえた論理的思考力と読解力が求められる設問となっており、普段の授業から思考力・判断力・表現力等や、読解力を重視する授業改善が望まれる。
- 問6 「ヤマアラシのジレンマ」についての理解を求める設問である。事例に基づいての説明であるため、受験者の確かな知識をはかることができたのではないだろうか。用語自体

は基本的なものであり、難易度としては平易な設問である。

問7 自然環境に関わる用語の正誤問題である。「倫理」の授業では思想家を中心に扱うため、細部まで確認するのが難しい範囲ではあるが、設問の難易度としては標準である。

問8 グラフの読み取りの標準的な難易度の設問である。グラフの読み取りだけでなく、会話文を適切に判断することで正答を導くことができる。丁寧な読み取りと判断が求められた。

問9 冒頭の発表を前提に、会話文に高校生の考察を当てはめる設問である。大問全体の趣旨を踏まえて、論理的に考察できれば難しくない設問である。より一層、原典資料の読み取りと関連させた出題を期待したい。

3 分量・程度

試験問題は、大問4、設問数33で昨年度の追試験と同様の構成である。バランスよく幅広い分野が出題されており、範囲、難易度としては適切である。対策をしていけば時間内の解答についても問題のない分量である。全体を通して、有名な思想家の概念や用語については資料を用いて知識を前提とした思考力・判断力・表現力等をはかろうとする等の工夫がみられた。単に教科書で知識を暗記するのではなく、知識を活用して正答を導くことができるようになることが重要である。また、抽象的な概念の用語を具体的事象に当てはめて出題することで、受験者の知識の定着や活用をはかる問題となっていた。教科書に記載の少ない思想家、用語については資料等を用いて解答できるように工夫されたい。受験者が現代の倫理的諸課題について日々興味関心を持てるように、倫理的諸課題を踏まえた問題作成を継続してほしい。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語について特段の問題はなかった。写真は使われていなかったが、図表の扱いは適切であった。高校生が興味関心に基づき、自ら問いを立て、授業での学習や他者との対話を通して学びを深め、生活の中で応用したり、新たな問いを立てたりする過程を問題の場面設定としており、主体的、対話的で深い学びや、探究学習を意識した構成となっていた。原典資料も豊富に提示されており、中には芸術鑑賞時の劇中の台詞や、授業時の南方曼荼羅の絵などもあって、資料の提示の仕方自体にも工夫がみられた。資料の読解のみで解答できるものが見受けられたのは課題であるが、資料の読解と基本的な知識を組み合わせる工夫だけでなく、知識を基に資料を読み解き、得られた知見を自らの生活に応用するとどういえるかを問う設問もあり、本来の資料活用の在り方が示されていたのは意義深い。統計資料も使われており、グラフから読み取れる複数の情報を、会話文の文脈に即して取捨選択する力を問う形式で、情報活用能力が深く問われていた。全体を通して、「倫理」における探究学習の進め方や、その生活への応用可能性が示されており、授業改善に資するものとなっていた。

5 まとめ（総括的な評価）

追・再試験は、テーマの設定がよく工夫されており、探究的な学びの在り方としても参考となる大問が多い。ただし、受験者数の少なさから統計的な正確性を期することはできないが、難易度が高い問題も存在している。「倫理」で学習する基本的な知識を社会問題の原因追究に応用したり、絵画資料を手掛かりとしつつ知識と組み合わせる考察したりする問題を増やすことで、知識や資料に基づく思考力・判断力・表現力等に重点を置いた授業改善へのメッセージ性が高まるといえる。また、追・再試験の文章量は適切であり、今後も先哲の思想に関する理解の質を問うと

同時に、読解にかかると想定される時間が今回と同程度であることが望まれる。さらに、倫理的諸課題についての「問い」に正対して多面的・多角的に思考し、自らの考えを掘り下げる学習過程を重視することが、「倫理」という科目の特性に適している。自己や社会に関する現代的な課題に先哲の思想を手掛かりとして向き合い、思索を深めることの意義が理解されるような問題作成の工夫の継続を期待したい。